

総務省

「平成22年度 新ICT利活用サービス創出支援事業」

採択案件(10件)概要一覧

課題番号 ①

国内ファイルフォーマット(中間(交換)フォーマット)の共通化に向けた環境整備

「電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト」

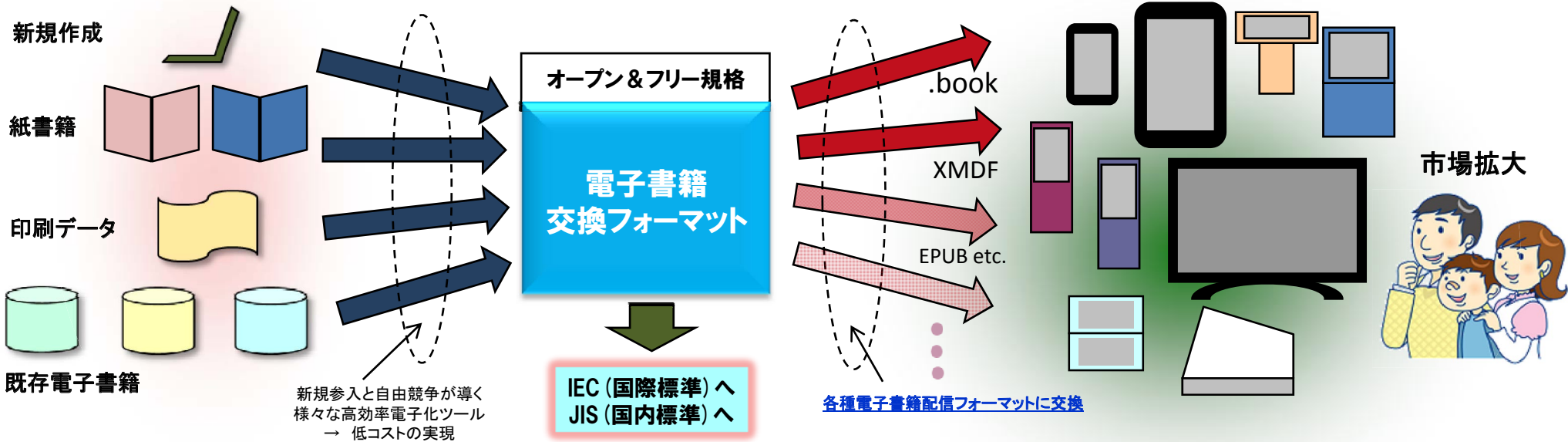
(代表提案者: 一般社団法人日本電子書籍出版社協会)

共同提案者: 学校法人東京電機大学、大日本印刷株式会社、凸版印刷株式会社、慶昌堂印刷株式会社、豊国印刷株式会社、株式会社ポイジャー、シャープ株式会社、シャープビジネスコンピュータソフトウェア株式会社

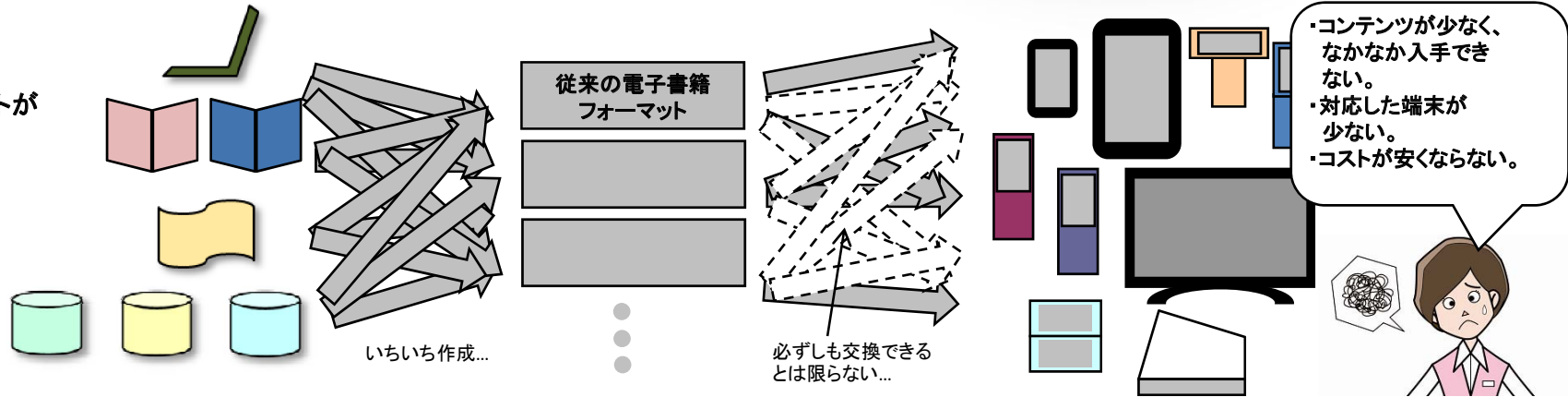
オープン(公開)でフリー(利用が無償)な電子書籍の交換フォーマットにより、

- コンテンツ・サービス提供者: コンテンツ提供のコストが削減され、対応端末数が増加し、販売機会・収益が増大する。
- サービス利用者: コンテンツが増加し、かつスピーディーに入手できる。どの端末でも区別なく、全てのコンテンツが閲覧できる。
- メーカー・技術ベンダー: 異なるコンテンツに合わせて複数のビューアを供給・搭載する必要がなくなり開発コストが削減できる。

→ オープン規格を中心として新規参入・自由競争が喚起され、市場拡大が加速する。



現状:
電子書籍交換フォーマットがないために...



課題番号 ②

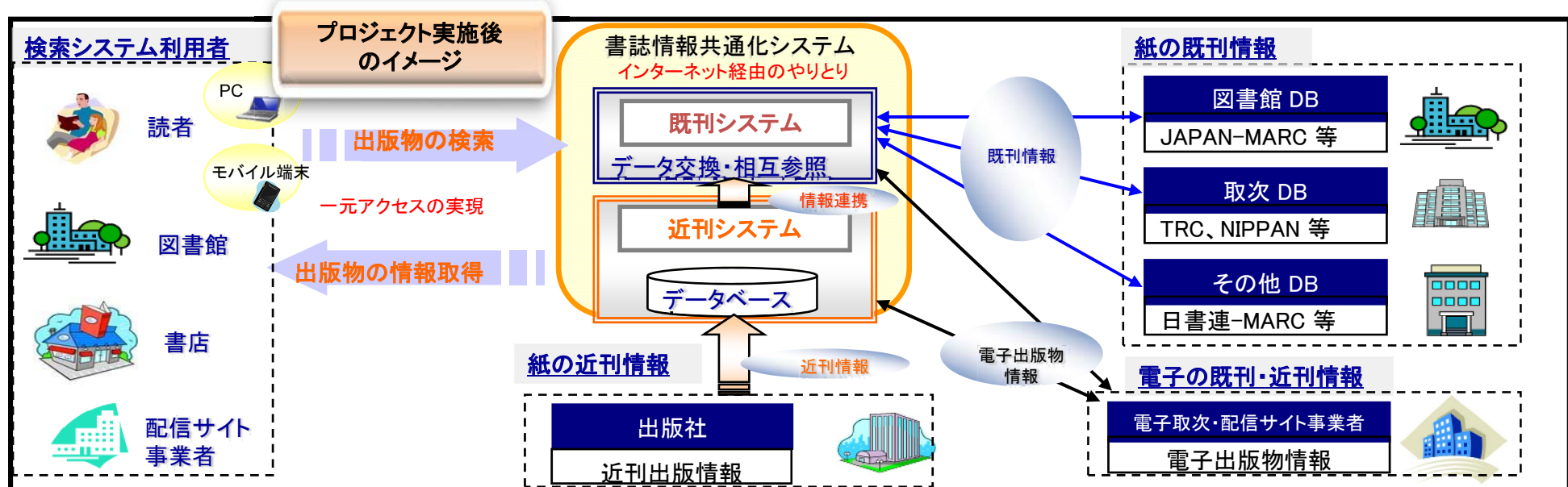
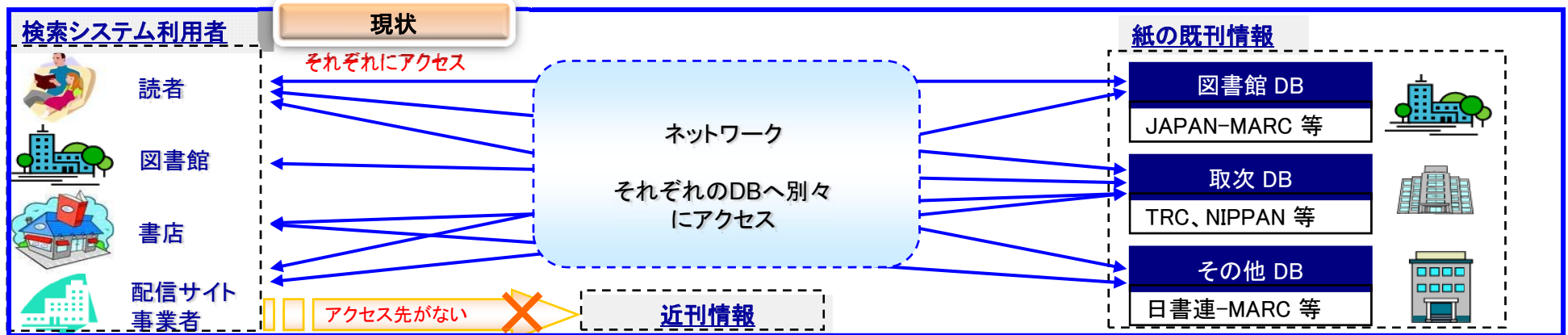
書誌情報(MARC等)フォーマットの確立に向けた環境整備

「次世代書誌情報の共通化に向けた環境整備」

(代表提案者: 社団法人日本書籍出版協会)

共同提案者: 一般社団法人日本出版インフラセンター、NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社数理計画

本検討・実証は、昨今の「電子出版を巡って著しく進展している世界情勢」や「電子出版市場におけるコンテンツ量が増大」している現状において、既刊出版物における書誌情報データベースが多数存在し、近刊出版物における書誌情報データベースが未確立の状態にあることを踏まえ、今後のデジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用を促進するために、「電子と紙双方の出版物において、既刊・近刊出版物の別に関わらず各利用者が容易かつ迅速に情報入手・提供することのできる仕組み」について検討・実証を行うことを目的とする。



課題番号 ③

メタデータの相互運用性の確保に向けた環境
整備

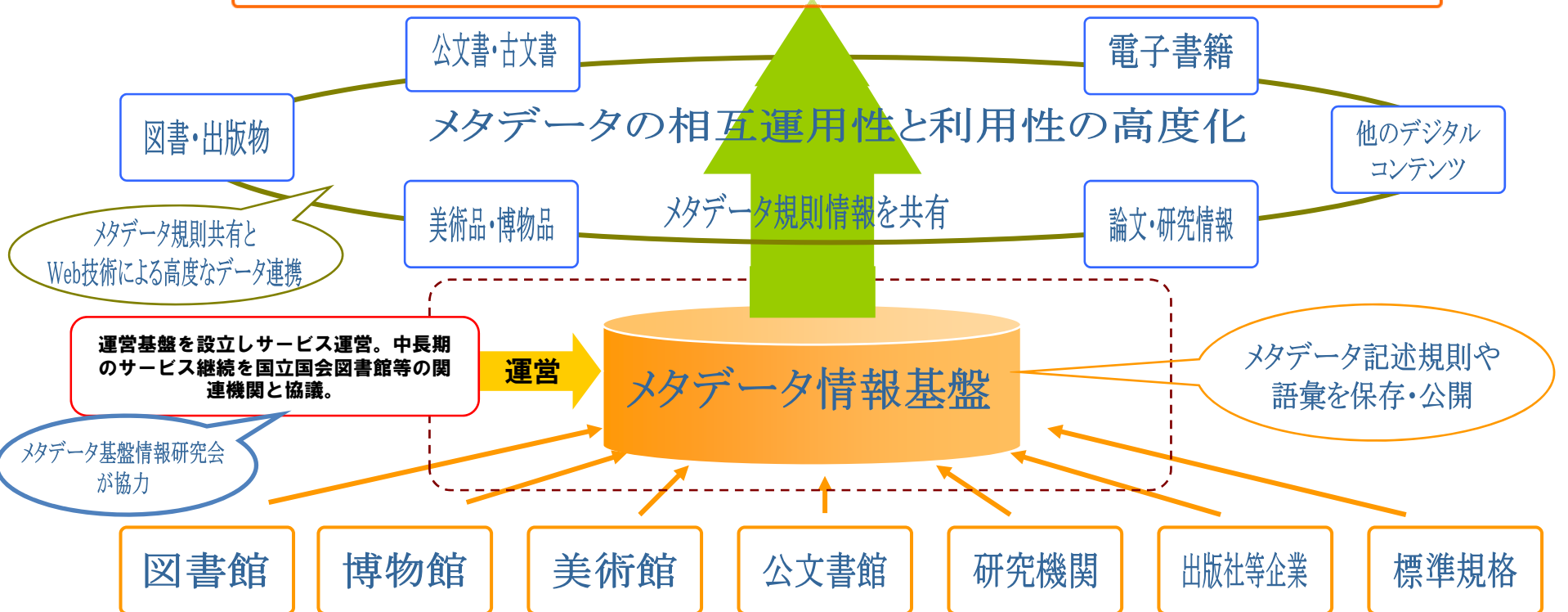
「メタデータ情報基盤構築事業」

(代表提案者: 筑波大学)

共同提案者: インフォコム株式会社、株式会社インフォコム西日本、株式会社ナレッジ・シナジー
合資会社ゼノン、ロジカルウェブ株式会社、株式会社ジオ・ブレーション

- メタデータの相互運用性と利用性の高度化を目的として、メタデータ記述規則等の標準仕様とオープンなメタデータ情報基盤の仕組みを検証・実証する。
- メタデータ情報基盤では、図書館、博物館、美術館、公文書館、研究機関、民間出版者等の様々な機関が利用するメタデータ記述規則や語彙の情報を収集し、デジタルコンテンツ提供者やデジタルコンテンツを利用したサービス提供者等へ一元的に提供する。
- デジタルコンテンツ流通には欠かせないメタデータの流通性、相互運用性の高度化を進め、それによって電子書籍を含む多様なデジタルコンテンツの利用環境の高度化を進めることができる。デジタルコンテンツ流通の基盤が整備され、目的とするデジタルコンテンツをすばやく簡単に発見することができることや、多種多様なデジタルコンテンツに関するメタデータの相互運用性が確保されることにより、新たなサービスの創出がされる。

ICTを活用した新しいサービスを創出

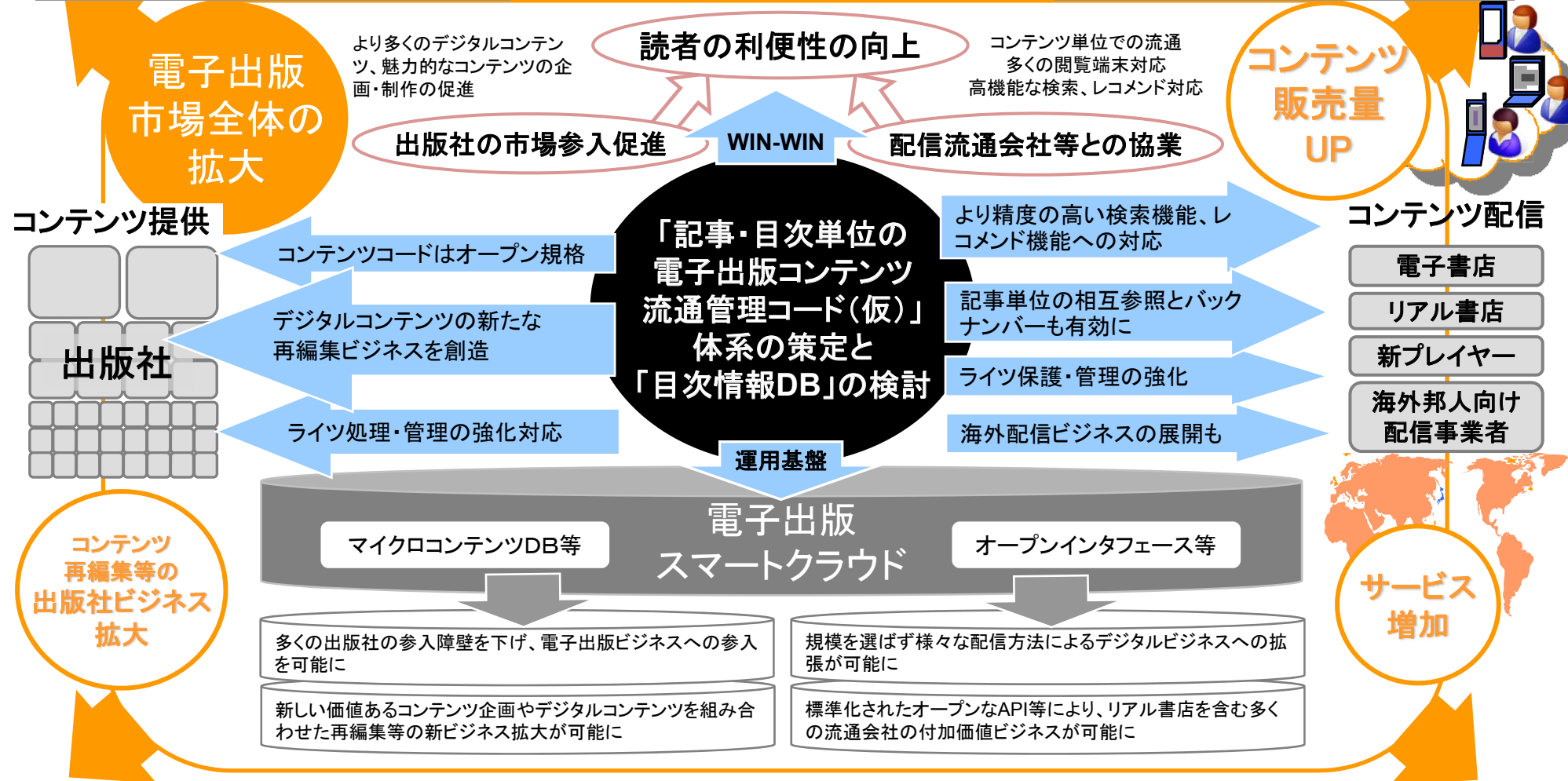
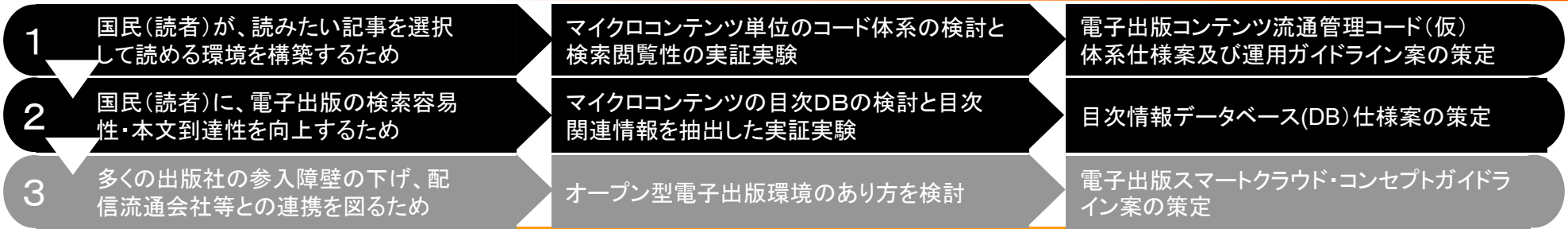


課題番号 ④

記事・目次等の単位で細分化されたコンテンツ
ツ配信等の実現に向けた環境整備

「次世代電子出版コンテンツID推進プロジェクト」

(代表提案者: 社団法人日本雑誌協会) [共同提案者: 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社]



課題番号 ⑤

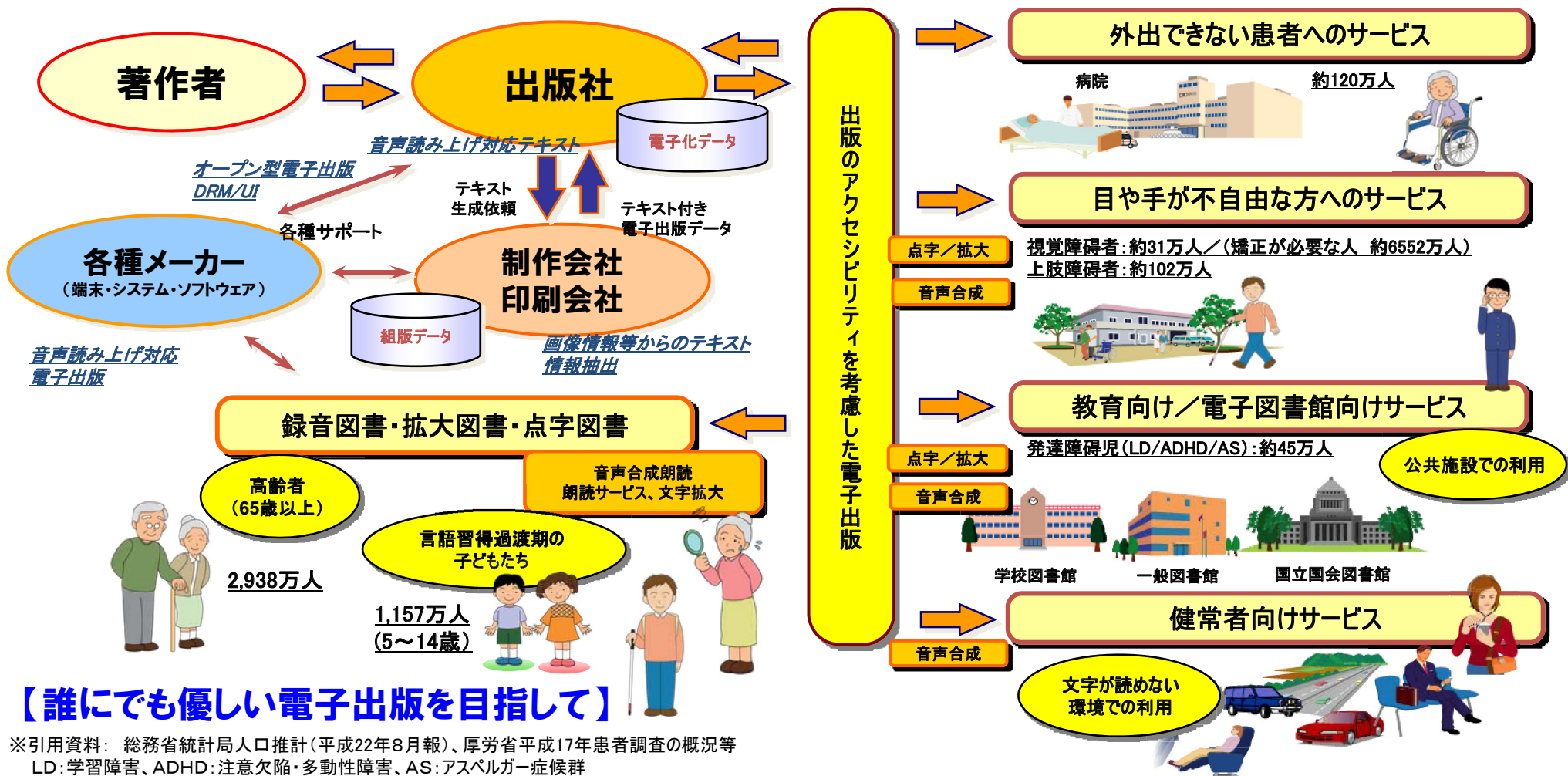
電子出版のアクセシビリティの確保

「アクセシビリティを考慮した電子出版サービスの実現」

(代表提案者：一般社団法人電子出版制作・流通協議会)

共同提案者：株式会社電通、京セラ丸善システムインテグレーション株式会社
株式会社日立コンサルティング

電子出版のアクセシビリティの確保を目指したサービスを創出するために、国内外の先進的なアクセシビリティの取組を調査し、音声読み上げに利用するテキストデータの生成、流通、利用、評価といった実証を通し、画像情報等からのテキスト情報抽出ガイドライン、オープン型電子出版DRM/UI仕様書、音声読み上げ対応テキスト表記仕様書及び音声読み上げ対応電子出版制作ガイドラインを策定する。



【誰にでも優しい電子出版を目指して】

※引用資料：総務省統計局人口推計(平成22年8月報)、厚労省平成17年患者調査の概況等
LD: 学習障害、ADHD: 注意欠陥・多動性障害、AS: アスペルガー症候群

課題番号 ⑥

書店を通じた電子出版と紙の出版物のシナ
ジー効果の発揮

(代表提案者:株式会社インフォシティ)

共同提案者:日本書店商業組合連合会
ハイブリッドeBookコンソーシアム

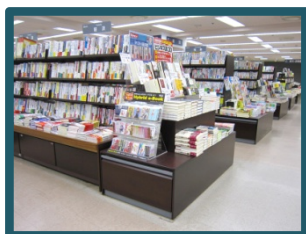
成果展開例 (書店店頭における、紙と電子の総体として市場拡大を実現する基盤技術の標準化)

ハイブリッド型電子出版流通

書店店頭での電子出版の販売を実現する、パッケージ販売とネットワーク販売を組み合わせた新たな電子出版流通基盤

既存の紙の出版物の流通基盤 (※本プロジェクトの範囲外)

書店店頭



パッケージ販売
書店店頭で、メモリーカードを用いて電子出版のパッケージを販売

ネットワーク販売
書店店頭で、Wi-Fi等のネットワーク環境を利用し、オンラインで電子出版を販売

書店店頭における電子出版の活用例



利用者

- ・パッケージ化された電子出版を手にする安心感
- ・大容量のシリーズ作品等もダウンロードのストレスなく購入・閲覧が可能

- ・ネットワークでの購入を躊躇していた利用者にも安心して購入できる場を提供
- ・シリーズ・関連作品を手軽に追加購入が可能

- ・購入前に開封できないコミックの一部を試し読み

書店主

店頭で電子出版を販売する流通基盤を整備することによって、紙の出版物と電子出版を同じ売り場で販売することが可能となり、それぞれの商品を用いた出版社フェアや作家フェア、様々なテーマイベント等も企画できるようになり、創意工夫により販売機会が拡大

また、情報発信の場としても、店頭で様々な電子出版や閲覧端末に気軽に触れられる場を提供することによって、地域のコミュニケーションをはかれる場としても活性化が期待できる。

視聴ページ数を制御できる電子出版の特性を生かし、店頭での試し読みを実現しコミックの販売機会を拡大

「ハイブリッド型電子出版流通」における、権利保護技術や電子出版フォーマットといった基盤技術を標準化することによって、複数の電子出版の販売事業者や閲覧端末のメーカーの参入を促進しマーケットの活性化を図る

課題番号 ⑦

その他電子出版の制作・流通の促進に向けた環境整備

課題⑦その他電子出版の制作・流通の促進に向けた環境整備

「EPUB日本語拡張仕様策定」

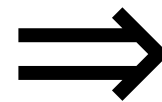
(代表提案者: イースト株式会社)

共同提案者: 一般社団法人 日本電子出版協会 (JEPA)
アンテナハウス株式会社

世界の様々なEPUBリーダーやデバイスで、縦書き、ルビなどの日本語組版を実現させ、紙の出版物の流通では考えられなかったほど広汎な国・地域を含めた全世界に日本の出版物を発信することを可能にし、よって市場の拡大を目指す。

山路を登りながら、こう考えた。
智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。
とにかく人の世は住みにくい。

夏目漱石「草枕」より



山路^{やまみち}を登りながら、こう考えた。
智^ちに働けば角^{かど}が立つ。情^{じまう}に棹^{さお}させば流^{なが}される。意地^{いぢ}を通^とせば窮屈^{きゆうくつ}だ。
と^とかくに人の世^よは住^すみにくい。

課題⑦その他電子出版の制作・流通の促進に向けた環境整備

「研究・教育機関における電子ブック利用拡大のための環境整備」

(代表提案者: 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構)

共同提案者: 東京大学、千葉大学、京都大学、九州大学
一般社団法人 日本電子出版協会 (JEPA)

背景

目的

方法

- 紙媒体で実現できていた、キャンパスや学部、研究室といった異なる所属レベルでの契約難
- 大学における電子ブックの契約ならびに利用促進に対し、大きなマイナス要因
- 学術書、専門書出版社は市場がみえず、電子ブック出版に躊躇
- 柔軟な認証機能の導入により、利用規模や利用形態に応じた契約・利用が可能
- 従来のIP認証と異なり、自宅や出張先からも機関契約コンテンツにアクセス可能
- 学術認証フェデレーションを活用し電子ブックアクセスインフラを効率的に構築



課題⑦その他電子出版の制作・流通の促進に向けた環境整備

「図書館デジタルコンテンツ流通促進プロジェクト」

(代表提案者:ビジネス支援図書館推進協議会)

共同提案者:日本ユニシス株式会社
株式会社ミクプランニング

インターネットデータセンタ上に構築されたバーチャルな電子図書館から、市民等にインターネット経由で地域情報や電子書籍等のデジタルコンテンツを提供する新市場創造型のサービス



サービスの特長

- 1) 提供機能・情報
- 2) 利用場所・場面
- 3) 利用者メリット

- ・電子図書館機能
- ・様々なコンテンツ提供
- ・いつでもどこでも。
- ・情報が必要な場面で
- ・市民のメリット
- ・出版社のメリット
- ・図書館のメリット

コンテンツを保護(DRM)しながら、電子書籍を市民へ貸出して閲覧できる機能
教材、文芸、ビジネス情報、地域資料等、市民が必要とする様々なコンテンツの提供
クラウドを活かして、自宅や学校・職場等様々な場所で必要なとき、必要な時間に利用
学習・指導や起業・ビジネス、レクリエーション等、様々な目的で様々なコンテンツを利用
公平に知へアクセスできる (図書館が持つ公平な知のアクセスを電子書籍でも実現)
販売機会の創造 (図書館向に電子書籍等のコンテンツを販売できるようになる)
クラウドで安価で手間が少なく電子書籍を提供できる。

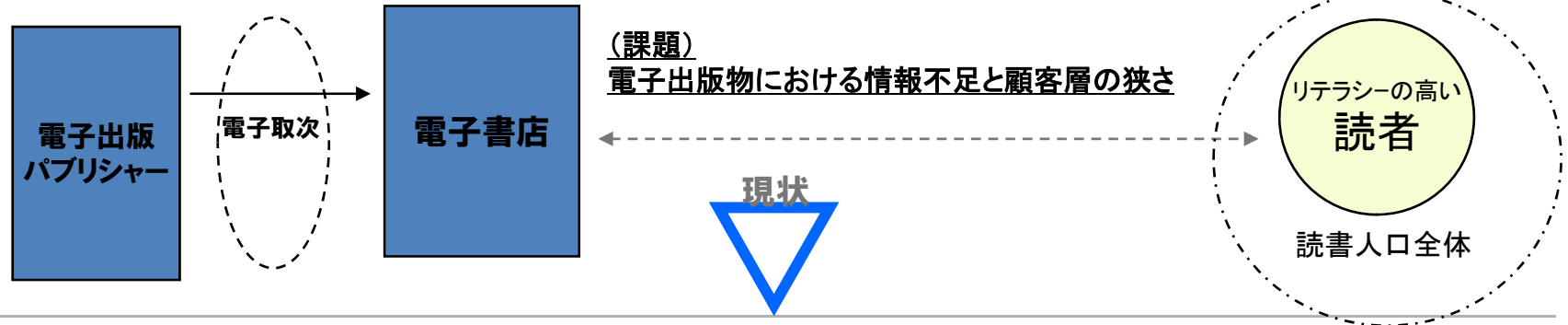
課題⑦その他電子出版の制作・流通の促進に向けた環境整備

「電子出版の流通促進のための情報共有クラウドの構築と書店店頭での同システムの活用施策プロジェクト」

共同提案者：日本書店商業組合連合会、社団法人日本出版取次協会
社団法人日本雑誌協会、社団法人日本書籍出版協会
株式会社博報堂、プライマル株式会社

(代表提案者：財団法人出版文化産業振興財団(JPIC))

- 電子出版の流通に関する現状の問題点は、電子出版物に関する情報が圧倒的に不足していることと、その情報に接触できる層が電子情報にリテラシーの高い一部の層に限られていることである。
- この問題点を解消するために、電子出版に関する新刊情報、売れ行き情報、書評などを蓄積したクラウドサーバを構築し、読者との圧倒的接点を持つリアル書店の店頭で書店員や読者が接触できる環境を整備する。
- このクラウドサーバの活用によって、リアル書店が来店した読者を登録させることが可能になり、以降、電子出版物の情報を流通させることで、読者は紙の本を選ぶのと同じように電子出版物を選ぶことができるようになり、電子出版の販売は確実に伸張する。



本提案が目指しているもの

